

しえんちゃん & センタクくん

経験豊かな心理療法家 三木善彦先生 帝塚山大学心理学部教授

三木善彦先生(当センター理事)は、「内観」という心理療法では第一人者であり、多くの分野で活躍されています。ともすれば緊張気味となるカウンセリング場面では時に手品の特技が大活躍、雰囲気や和らげてクライアント(患者)の心を開きます。

被害者支援には「15~6年前、大阪の支援センター設立時に全国ネットワークの山上皓理事長に依頼された」ことで関わりが生まれました。長く奈良少年刑務所では篤志面接委員として加害者側の更正にたずさわってきましたが、「加害者の背後にいる被害者がこれほど無権利な状態にあること」に驚き、知らなかったことを申し訳なく思ったそうです。

現在、継続的にカウンセリングを必要とするケースを担当していただいています。被害者カウンセリングが普通のそれと違うのは、「例えば『今は喪失感や深い悲しみの時期で、それが後の立ち直りにつながるのです』とか『他人を気にしないで、自分の感情を大切にしてください』といった心理教育(症状が異常ではないと理解する)が重要なところだ」と説明されました。



写真: お影がトレードマークの三木先生

INFORMATION

犯罪被害者支援のスタッフ募集

電話相談・直接支援等の被害者支援に携わる「第5期ボランティア支援員」を募集しています。

- 1、募集期間:平成23年6月1日~7月末日まで
- 2、募集人数:20名程度
- 3、応募資格:①奈良県在住の成人②犯罪被害者および家族、遺族等が抱える悩みの解決や心のケアなど、被害者支援活動の趣旨に賛同し、ボランティアとして積極的に参加できる方。
- 4、応募方法:申込書(事務局に問合わせ)に必要事項をご記入のうえ、郵送またはFAXしてください。
- 5、その他
 - ・応募された方には書類選考の上、面接を実施します
 - ・支援活動に必要な知識・技能を修得するため、一定の講習を受講(受講料12,000円)していただきます。
 - ・講習は9月9日~11月末まで約40時間実施する予定です。

(社)なら犯罪被害者支援センター
設立10周年記念行事

当センターは今秋設立10周年を迎えます。下記の日程で式典と感謝のつどいを行いますので、多数ご参加下さい。

- 1、日 時:平成23年10月5日(水曜日)
 - 第一部 15:30~17:00
 - 第二部 17:30~19:00
- 2、ところ:奈良市池之町73 猿沢荘 2・3F
- 3、第一部:式典・表彰
講演「支援者のストレスとサポート」
講師:三木善彦帝塚山大学教授。当センター理事
第二部:懇親会とミニコンサート「マンドリンアンサンブル まほろば」
- 4、会 費:3,000円
- 5、参加申し込みは別紙に記入のうえ、事務局までFAXまたは郵送にてお願いします。

賛助会員・寄付等のお願い

(社)なら犯罪被害者支援センターの活動は、「正会員」「賛助会員」の会費と、ご寄付により支えられています。みなさまのご理解とご協力をお願いします。個人会員には会員証(小・樹脂製)、法人会員には会員証(大・同)を用意しています。詳細は事務局迄ご連絡ください。

賛助会員 年会費	個人	1口 3,000円
	企業 団体	1口10,000円



奈良県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体

(社)なら犯罪被害者支援センター

〒630-8217 奈良市橋本町3番地の1
奈良マーチャントシードセンター3F

事務局電話:0742-26-6935

FAX:0742-95-7560

活動日時:月・火・水・金・土 / 10:00~16:00

相談電話:0742-24-0783 は 10:00~15:00

中和相談コーナー:0744-23-0783 は 火曜日のみ
10:00~16:00

「ハートニュース 2011 春号 Vol.11」

発行責任者:森田清司 / 発行日:平成23年5月
写真&編集:石原淑子 / イラスト:石原真弓 他



ハートニュース

(社)なら犯罪被害者支援センターは犯罪被害に遭われた方々をサポートしています。



2011 春
Vol.11

《奈良県十津川村・上湯(かみゆ)温泉から熊野山地を望む》

CONTENTS

- ご挨拶 理事長 西口廣宗 2
- 平成23年度新役員 2
- 相談・支援活動概況 [平成22年度] 3
- 広報・研修活動カレンダー[平成22年度後期] 4~5
- ご協力ありがとうございます 6~7
- 募金箱へのご協力 7
- しえんちゃん&センタクくん =三木善彦氏= 8
- 当支援センター10周年記念行事のお知らせ 8
- 犯罪被害者支援スタッフ募集のお知らせ 8

被害に遭われたらまずお電話を!

(社)なら犯罪被害者支援センター相談電話

0742-24-0783

ゼロナヤミ

月・火・水・金・土曜日 10:00~15:00

中和相談コーナーを橿原市に新設しました

0744-23-0783

火曜日のみ 10:00~16:00

秘密は厳守いたします





ごあいさつ

理事長 西口 廣宗

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。
また被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

大震災発生後2ヶ月が経ちましたが、日を追って被災者の方々の喪失感や不安・苦しみ
が現実的になっています。私たち「なら犯罪被害者支援センター」では犯罪被害者・遺族
の支援活動を行っていますが、どちらの支援も「被害・被災を受けた方々が平穏な生活
を取り戻すまでの途切れない支援」が重要と痛感しています。私たちもこれまでの支援活動の経験と知見を生かし、
長期的・継続的な視点で被害者・被災者の方々への支援活動を続けていきたいと思っております。

みなさまには当センターに常日頃よりご協力・ご支援を寄せていただき、感謝とお礼を申し上げます。おかげさ
まで新しく「公益社団法人・なら犯罪被害者支援センター」として認定を受ける予定です。そして橿原市のご協力
を得て中南和相談コーナーを開設することになりました。さらなる社会的な役割や責任の重さを受け止めていると
ころです。また実際の相談活動においては電話相談や直接支援の件数も急増しており、日々研鑽と学びを重ねてい
ます。今後さらに各関連機関との連携を深めながら、センターの支援体制の強化、支援員の養成・研修等に努めて
いく所存です。どうぞよろしくお祈りいたします。

平成23年度（社）なら犯罪被害者支援センター 新役員等

(敬称略・順不同)

役名	氏名	所属団体・役職
理事長	西口 廣宗	株式会社南都銀行 代表取締役会長
副理事長	森本 俊一	三和澱粉工業株式会社 代表取締役会長
	島本 郁子	産婦人科医、奈良県立医科大学臨床教授
専務理事	森田 清司	元奈良県警察刑事部長
理事	秋本 譲二	弁護士、奈良弁護士会犯罪被害者支援委員
	三木 善彦	なら被害者支援ネットワーク代表、帝塚山大学心理学部教授
	千原 雅代	天理大学臨床人間学研究科教授
	菊池 武之祐	奈良トヨペット株式会社 代表取締役会長
	永田 正利	全国農業協同組合連合会 経営管理委員会会長
	北條 正崇	弁護士、奈良弁護士会犯罪被害者支援委員
	宮代 トシ子	当センター事務局長、元奈良県中央こども家庭相談センター相談員
	花内 益次	元奈良県警察交通部長、元奈良県交通安全協会専務理事
	岩本 サカエ	奈良いのちの電話協会 事務局長
	柳谷 勝美	前奈良経済同友会代表幹事、大和信用金庫監査役
監事	坪井 貞美	株式会社南都銀行総務部顧問、元奈良県警察生活安全部長
	亀井 常可	税理士、近畿税理士会奈良県支部連合会顧問
顧問	堀川 英幸	三和澱粉工業株式会社 顧問
	山上 皓	全国被害者支援ネットワーク理事長、東京医科歯科大学名誉教授
	影山 清	奈良県くらし創造部長
	片岡 隆弘	奈良市市民活動部長
	幡谷 賢治	奈良県警察本部警務部長
参与	藤掛 永良	元奈良大学教授、奈良県臨床心理士会理事
	大森 宏悦	奈良県警察本部警務部参事官
	今谷 政昭	奈良県警察本部警務部県民サービス課長
	坂本 康和	奈良県警察本部警務部県民サービス課犯罪被害者支援担当補佐

平成22年度 相談活動・支援活動の概況

■ 相談・支援活動の現状

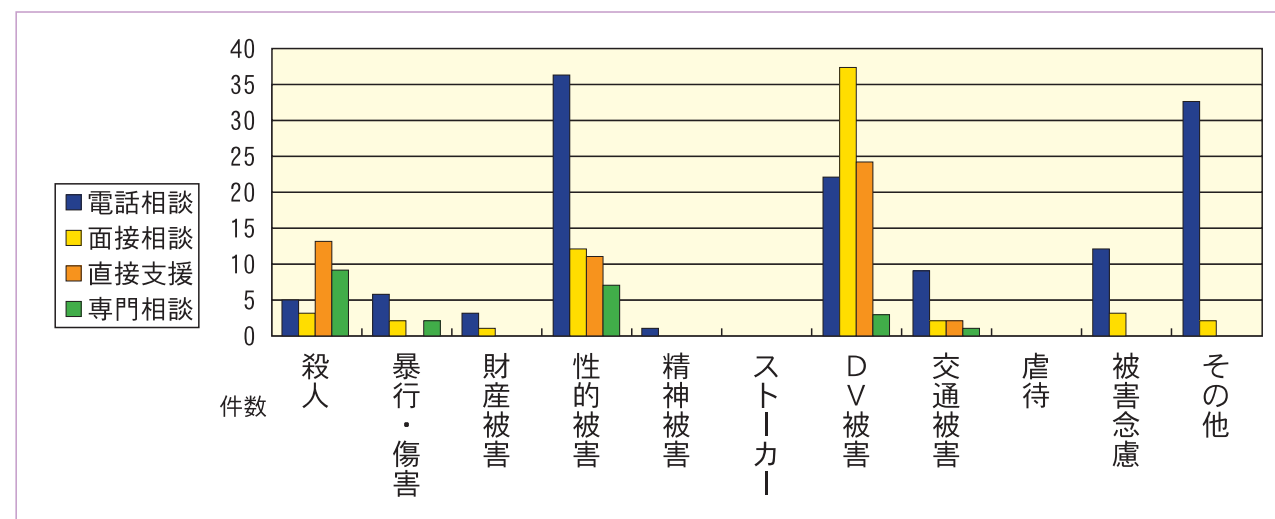
平成22年度の相談取り扱い件数は260件で、前年度の1.4倍に増えました。特に電話相談や直接支援、専門相談の増加が顕著です。支援の入り口である電話相談の増加が、直接支援や専門相談の増加につながったと思われます。直接支援では【表3】のように、医療やカウンセリング機関への手配や付き添い、法律相談の連絡や付き添いの件数が多くなっています。被害を受けた方は心身ともに傷ついておられ、より専門的な医療やカウンセリングが必要ですし、さらに今後の対応として法律相談を必要とされていることがうかがわれます。

内容別件数【グラフ1】では性的被害・DV被害の件数が多くなっています。また今年度は殺人事件(実数3)や交通事故の取り扱いもあり、「ニーズに沿ったよりきめ細かい支援が大切」と気を引き締めています。そして私たち支援に関わるものは、被害に遭われた方に寄り添って被害からの回復のお手伝いをし、適切な時期に適切な情報を提供できるよう、さらに研鑽に努めたいと思っています。

■ 相談・支援活動の区分件数【表1】

区分	電話相談	面接相談	直接支援	専門相談	取り扱い総数
22年度	126	62	50	22	260
21年度	89	63	20	14	186

■ 被害の内容別件数【グラフ1】



■ 専門相談の内容【表2】

	臨床心理士	弁護士	医師	計
殺人	3	2	4	9
暴行・傷害	1	1	0	2
性的被害	0	4	3	7
DV被害	1	1	1	3
交通被害	0	1	0	1
計	5	9	8	22

■ 直接支援の内容【表3】

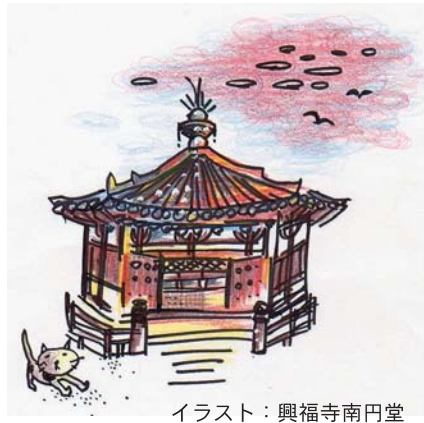
① 家事、身の回りの世話等日常生活の支援	8
② 関係機関等への連絡、付き添い	8
③ 医療機関、カウンセリングへの手配、付き添い	16
④ 警察署、検察庁、裁判所等への連絡、付き添い	3
⑤ 法律相談への連絡、付き添い	15
計	50



なら犯罪被害者支援センター 平成22年度 後期

「広報・研修活動」カレンダー

平成22年度後期も継続的に支援員の研修・広報活動を活発に行いました。第4期生13名が新支援員に委嘱され、支援体制も整ってきました。昨秋に開催した「奈良県民のつどい」では、全国犯罪被害者の会幹事の土師（はせ）守さんをお迎えして貴重なお話を聞くことができました。



イラスト：興福寺南円堂

平成22年度 第2回通常総会



写真：総会での議論の様子

定数変更などを議論・検討

と き：平成23年2月15日

ところ：奈良マーチャントシードセンター

変更された主な3点は以下のとおりです。

- 1、定数を公益三法（法人法・認定法・整備法）に適合するよう全面的に変更。
- 2、役員報酬の額を総会で決定。
- 3、賛助会員の入退会の自由および会費を改定。

総会の承認を受けて2月18日、奈良県に「公益社団法人」への移行申請を行いました。平成23年8月頃には結果が出る予定です。

犯罪被害者支援・奈良県民のつどい

今年のテーマは「犯罪被害者への途切れない支援」

と き：平成22年11月26日

ところ：奈良市ならまちセンター

まず1997年に神戸市で起きた「少年連続殺傷事件」の被害者遺族（お父さん）である土師守氏（写真右・全国犯罪被害者の会幹事）が「途切れない支援の重要性」について講演されました。

メディアスクラム（報道機関による集団的過熱取材）の二次被害について、「次男（淳くん）の捜索が始まってから、私たち家族は精も根も尽き果てた状態だったのに、メディアの取材は容赦なかった。そのために次男（のご遺体）は一度も家に帰ることができなかった」とつらさを話されました。そして家族が自責の念に苦しんだことや、長男に対する配慮が足りなかった心残りを述懐されました。最後に各方面からの多くの支援に感謝され、途切れない支援のためには「被害後は時期により状況が変化し、必要な支援の形も変化していくので、常に被害者の視点からの支援を考えて欲しい。被害者・遺族はあらゆることに対して決定能力が落ちていきます。生活支援はすぐに必要だし、具体的で目に見える支援が重要です」と結ばれました。

その後に開かれた「被害者支援フォーラム」では三木善彦氏（帝塚山大学教授）をコーディネーターに、土師守氏、北條正崇氏（弁護士）、吉村豊氏（県警犯罪被害者支援室長）、宮代トシ子氏（当センター事務局長）、石原淑子氏（相談支援員）ら5人のパネリストが議論・報告を行いました。



「犯罪被害者等支援員（第4期）」と「直接支援員」の委嘱式



写真：委嘱状を受ける新支援員のみなさん

新支援員13名と直接支援員3名に委嘱

と き：平成23年4月1日

ところ：奈良マーチャントシードセンター

西口廣宗理事長から「犯罪被害者支援活動の一翼を担っていただき、社会に貢献されますよう期待します」と励ましの挨拶があり、それに応えて新支援員代表からは、「私たちは研修で取得した知識や技能を発揮して、被害者やご遺族の立場にたった支援活動を行います」と力強い誓いのことが述べられました。

裁判傍聴と裁判所見学

被害者参加裁判や裁判員裁判について解説

と き：平成23年2月25日

ところ：奈良地方裁判所

第4期生の養成講座の一環として行った実地研修では、詐欺事件の裁判を約40分傍聴し、「他にも大勢やっているからという安易で甘い考えが結局は大変なことになると実感した」などの感想がありました。

傍聴後には裁判所刑事部書記官の方から「被害者参加裁判のワンポイント解説」があり、同裁判所において被害者参加裁判となったのは、21年度16件、22年度20件だったと説明されました。

野路裁判官への質問では、「裁判員裁判になって、検察官の求刑と実際の判決、また情状酌量などの判断に違いが生まれましたか？」などが出され、「検察側は以前、少し多めに求刑する（ゲタをはかせる）とも言われましたが、裁判員裁判になって限りなく判決に近い求刑になったと感じます」と説明がありました。



写真：支援員の質問に答える野路裁判官

定例研修会・他機関の研修参加の実施状況

センターでは毎月実施する「定例研修会」はじめ、交流会・支援会議等を開いて、支援員のさらなる資質・能力の向上をはかり、適切な支援を目指しています。

22年11月：近鉄奈良駅前街頭広報活動を実施。県警ナポくんも登場してチラシやアロマキャンドルを配布。

22年12月：定例研修「奈良県警本部の通信司令室見学」および「奈良地方検察庁見学」

23年1月：定例研修「新年の交流会と情報交換」

23年3月：定例研修「人間のはじまりはいつからか」講師：島本郁子氏（産婦人科医）

23年4月：定例研修「ボランティア精神について」講師：八木三郎氏（天理大学講師）

そのほか全国フォーラム、全国研修、直接的支援研修、近畿ブロック研修など多数の研修・講座に参加しました。



写真：奈良県警のナポくんも一緒に街頭活動



写真：スクリーンが並ぶ県警通信指令室

